

【小学生の部】鹿児島県知事表彰 最優秀賞

「今、わたしにできること」

鹿児島市立紫原小学校 4年 大塩 麻里七

「街がたくさんのだろ水につかってる。」

わたしがその様子をテレビで見たとき、あまりにもびっくりして声が出ませんでした。

平成29年7月、集中ごう雨で福岡県から大分県にかけて川のはんらんや土砂災害などが発生しました。この災害で、たくさんの人が亡くなっていること、だく流に流されて行方ふ明になっている人がいることを知りました。行方ふ明の人が見つかって、

「すでに死亡されて…。」

というニュースを聞いたたびに、つらい気持ちになりました。大切な人を失った家族の気持ちを考えると、わたしも涙が出そうです。もしわたしも家族とはなれているときに災害にあったら、家族のことが心配でたまらないと思います。

このような災害は、決して人事ではありません。わたしの住む鹿児島市も昔大きな水害があったと社会科の学習で知りました。また7月11日には鹿児島市で震度5の地震もありました。とつ然大きなゆれを感じ、先生の

「つくえの下にかくれなさい。」

という大きな声でいそいでかくれました。かくれている間、ずっと心ぞうがドキドキしていました。災害はいつどこで起こるか分からないということをあらためて感じた日でした。

災害にそなえて、今、わたしにできること、そして災害が起こったときに、わたしはどのように行動すればいいのだろうと考えました。

鹿児島市の中央地いきのかも池地区は指定ひなん場所が小学校や中学校と決められているそうです。そこでわたしたち家族は紫原小学校をひなん場所にしようと決めました。そして、ふだんから災害にそなえてかい中電灯や保存のできる食べ物や水をじゅんびしておくことにしました。

九州北部集中ごう雨から数週間たち、だんだんとふっ旧作業も進んでいることもニュースで知りました。そしてたくさんボランティアの人たちが、暑い中、ひ害にあった街のためにどろをそうじしたり、ゴミを集めたりといった作業をしていることも知りました。わたしもボランティアに参加してお手伝いできたらどんなにいいかと思いました。わたしは、福岡県や大分県の人たちにために何かできることはないだろうかと考えました。その時に、お父さんのお友達のことを思い出しました。お父さんの友達は熊本地震でお店がこわれてしまいました。しかし、地震から1年後の4月14日に新しいお店をオープンしました。その時にお父さんが手伝いに行っていたのです。ゴールデンウィークにお父さんの友達のお店に連れて行ってもらうと、お父さんの友達も、お客さんもみんな笑顔でした。わたしも自然とうれしく、笑顔になりました。

人は遠くで起きた災害をしばらくすると忘れてしまいます。しかし、災害にあった人たちは何年も何年もかけて元通りの生活ができるようがんばっているのです。そのことをわすれず、ずっとずっとおうえんしつづけることがわたしに、今、そしてこれからできることだと感じました。